

# ※にいじまむら 議会だより

第66号

平成25年9月



## 平成25年第3回定例会(9月)

### 会期日程

第3回定例会は平成25年9月25日、26日の  
両日に開催され、条例改正、他各種決算など  
を審査しました。

### もくじ

一般質問から	2～4
議長の目 <sup>ア</sup> ランド	5
鶴岡市視察研修	6～7
議長の四季報	8
編集後記	8

# Q 一 般 質 問

議員は「住民に代わって」村の行政全般に対して、事務の執行状況や将来の方針、計画あるいは疑問点などについて所信や疑問をただすことができます。

## 表紙は語る

顔の見える農産物—こんなキャッチフレーズがぴったりのなのが島しょJA新島支店の販売部門の直売所コーナー。  
ここでは当日の朝、地元の畑で採れたさつまいも、あしたばなど、それと養鶏場の卵を販売し

ている。常時あるわけではなく、それに午後には完売してしまうという。常連客が多く知る人ぞ知る隠れた穴場になっている。  
この日は前述の野菜の他、わけぎ、たまねぎ、さと芋、山芋、ニンニクなどが並んでいた。

山本均議員



これからの観光業はどうなるのか？

**問** 今年の夏の観光は入れ込み客は10%程度伸びたが、村ではどのように評価し

ているか？

**答** 天候に恵まれ欠航がほぼなく、なによりも国内の旅行控えが解消されつつあることだと思う。

**問** 新島、式根島の宿泊施設は減少傾向にあるが、どんな対策を考えるか？

**答** 民宿の空き家の借用等の手伝いを出来る中で協力したい。宿泊施設の減少に歯止めがかかるよう関係機関と協議していく。





東京都との合同防災訓練はどのようなものになるのか？

**問** 今年の東京都との合同防災訓練は？

**答** 南海トラフ巨大地震を想定し、救助、救出、物資の輸送等、防災関係機関が連携して災害対応力の向上をめざす。

**問** 一部高齢者等、自力避難できない人たちの支援をどうするか？

**答** 消防団の対応に加え、近所の支援、輸送手段の選定など更に検討する。

**問** 村の防災計画の見直しは？

**答** 今年度中に「津波対策総合計画」

を専門業者に委託し、26年度に「防災計画修正版」及び「津波避難版」を発行する。

**問** 神新汽船の新造船はどのようなものになるのか？

**答** この航路をどう評価しているか？

**問** 本土に最も近い航路として島内生活品の輸送に重要な役割を担っている。災害時には安全の観点からも欠かせない航路である。

**答** 本島に最も近い航路として島内生活品の輸送に重要な役割を担っている。災害時には安全の観点からも欠かせない航路である。

**問** 新造船の計画に村はどんな形で関与したか？

**答** 村は下田航路の維持を希望し、24年6月の東京都離島航路地域協議会で累積損失が生じないことを条件

**問** 今回の計画の評価は？

**答** フェリーには賛否があるが、スタビライザーの取付けで快適性の向上を目指している。評価できる。

に了承した。

**問** この航路は今後どうあるべきか？

**答** 村としては利用者数を増やすために直行便の就航を強く提言している。

**問** 5月31日、村長は議員5名と共に東京都と総務省を訪れ、新島村の超高速光ファイバー通信網の整備を要望した。その感触、見通しを具体的に教示

**問** 光ケーブル通信の実現可能性は？

**答** 現在の防災対策の進捗状況と今後の対応について村長の所見を伺う。

**問** 防炎対策について

**答** 現在の防災対策の進捗状況と今後の対応について村長の所見を伺う。

**問** 防炎対策について

願いたい。

**答** 国の感触はよく、東京都では7月2日に光ファイバー通信網が敷設されていない島しよ5村のインターネット等の利用環境改善に係る検討会を設置し、前向きな対応が図られている。

**問** 防炎対策について

**答** 防炎対策について

**問** 防炎対策について

**答** 防炎対策について

**問** 防炎対策について

**答** 防炎対策について

**問** 防炎対策について



宇山誠二議員



**答**

工事関係では原町の島庁跡地に高台整備と本村備蓄倉庫の建築を行い、防災無線では200台の受信機を隠居等に設置する。

また「避難道の安全調査」「津波対策総合計画」を作成し、26年度中には新たな「避難マップ」を作成、配布する。  
先般、太田国交大臣

が来島した際に防災施設の支援を強くお願いした次第だ。

**定住化対策について**

**問**

定住化促進のための調査研究の現在の状況と今後の方向性を村長に伺う。

**答**

若者の定住化を促進するためには

住宅の確保、雇用の場の創出、子育て環境の整備等さまざまな分野での条件整備が必要となってくる。

今年度は島外からの若者の移住につなげるために婚活事業に取り組み、来年度も継続する。

また空き家が多数あることが実態調査でわかり、これら空き家を再利用、活用する事業に取組む。

**清水欣吾議員**



村長の今後の政策について

**問**

12月で任期満了となり、助役を12年、村長を16年務められることになる。今後の去就を良い時期に表明することを望むが、村長いかがか？

**答**

議会、住民そして国、東京都等関係機関のご協力により十分と言えないながらもそれなりの行政効果を築いてきたと思う。

10月には防衛大臣が来島し、さらに東京都との合同防災訓練もある。これらの業務が終了後、意思表示させていただく。



**青沼喜六議員**



製氷冷凍冷蔵庫の建替えについて

**問**

現在の製氷冷凍冷蔵庫は村の所有物であることが判明した。フロンガスの使用禁止の通達が出、その最終処分年度は平成28年度となっている。当施設にはフロンガスが使われているので期限内に撤収する必要がある。現在の施設の解体と新たな製氷冷凍冷蔵庫の建設について速やかな対応をお願いしたい。



**答** 同施設の建設は昭和59年7月27日に新島漁業協同組合から、また同年9月に新島本村冷蔵冷凍製氷施設建設促進協議会から各要望書が提出された。村が事業主体となり実質的経営は「にじま製氷冷蔵庫運営委員会」があたつてきた。施設の撤去等は三団体（水産加工組合を含む）で協議し具体策を見出したい。代替施設も三団体で検討していきたい。



## 議長の目<sup>アイ</sup>ランド



### 〇〇〇災害に強いまちづくりを〇〇〇 (北海道奥尻島の町づくりから)

この7月9日に東京都町村議長の会の町づくり視察研修で奥尻島に行く機会を得た。

1993年7月12日午後10時17分、M7.8の北海道南西沖地震が発生し奥尻島は大きな被害を受けた。地震発生から2～3分で津波の第1波が来襲したものとみられており、震源地に近い島の北端部の稲穂地区・南端部の初松前の青苗地区・西海岸の藻内地区では地震と津波で壊滅的な被害を受けた（津波の最高遡上高は29m）。

2011年3月11日、今度は東北大震災が発生し、同じように地震と津波で多くの犠牲者を出し、原子力発電所の事故と相まって、福島県・宮城県では今なお多くの被災者が不自由な生活を強いられている。

私はこの視察研修を通じ、いつ起こるかわからない災害から町を住民を守るためには長い年月と多額の費用がかかるが、災害が発生する前に対策を講じて行く必要性を強く感じた。

奥尻島は震災前には4,301名の人口であったが、平成25年には2,981名と激減しているし、東北大震災でも町が存続できないほど人口が減っているところもあるようです。

新島村も東南海沖地震が発生すると1,300名余りもの住民が犠牲になると予測されています。仮に人的被害を最小に抑えても家や財産を失ったら、災害後の島に住む人はどのくらいいるのでしょうか。奥尻島は災害復興で14km（高さ11m）もの長い防潮堤を築いている。低い土地は盛り土をし、あるいは高台に移転して土地造成をしてまちづくりをしているが、震災前の人口には戻っていない。

地震による津波が発生したら、1秒でも早く高台に避難させ人命を守ることが第一義であり、そのために必要な避難道の整備や避難所の整備等緊急に構築する必要があることは言うまでもありません。しかし、同時に住民にずっとその場所で住み続けていただくためには、奥尻島の例に見られるように防潮堤の構築等「災害に強い町づくり」もまた必要ではないでしょうか。

## 山形県鶴岡市の漁業視察を終えて 念珠関支所・由良支所の現地報告 議員 宇 山 誠 二

平成25年5月17日山形県漁業協同組合に所属する念珠関(ねずがせき)支所と由良支所並びに山形県栽培漁業センターを視察した。

山形県漁業協同組合は、昭和40年に8単協・2業種組合・漁連が合併し、全国初の県単一漁協として発足した。組合は、庄内浜沿岸の2市1町(酒田市・鶴岡市・遊佐町)を管轄しており、操業形態は小型底曳網漁業を中心とした漁船漁業が主体となっている。

組合員数は、合併当初3,000人ほどであったが、高齢化、後継者不足、経営環境の悪化(燃料費の高騰)等により、平成25年3月末の組合員数は1,400人余りとなっており、合併当初と比べると半減している。

直近5年間の傾向として、正組合員数が減少して準組合員数が増加しているが、これは密漁の罰則が厳しくなったことがあげられるとのこと。

最近では魚価の低下が漁獲として収入に反映されない状況になってきており、経営は非常に厳しい状態が続いている。

山形県栽培漁業センターでは、ヒラメ・アワビ等の種苗放流を実施し魚種の枯渇化を防いでいる。

そんな折、念珠関支所では地域活性事業として、休漁期の底曳網船を活用した漁船によるクルージング(デイクルージング・ナイトクルージング)事業を行い、観光客の誘致を積極的に行っている。また、その日に獲れた魚を「魚まつり」(仮称)と称して観光客等に販売するなど、組合員の創意工夫による新規事業に取り組んでいた。

第1次産業である漁業は、地域産業の根幹であるということは当村においても言えますが、地域の資源や特性を活かした事業の展開を図ることが重要だと認識しました。漁業の活性化のためにはその時々状況に即した新たな事業にチャレンジしていく心構えがなければなりません、大切なことは新規事業や施設計画の際には、まず、持続可能性について検討・協議することが必要不可欠なことであると思いました。



午前10時過ぎ、県の最南端に位置する県漁協の念珠関総括支所に到着。漁協事務所で漁業の現況の説明を受け、その後製氷施設などを見学。写真は湾内側にある主に観光客を対象にした海産物の直売所。ウィークデイのため私たち以外の客はいなかったが、一夜干しの焼きイカを売っていた。早速、何人かが購入、味見。



昼食後海岸線を北上し、1時頃県漁協由良総括支所に到着。ここでも事務所内で型どおりの説明を受け、隣接の加工場は部外者は立入禁止とかで外で話を聞くのみ。

再びバスに乗り5分ほどで県栽培漁業センターへ。

水産加工協会概要を聞き、写真の施設内へ。見てのとおり大きな施設でアワビ、ヒラメ、クロダイ、アユなどの種苗生産を行っている。

## ● ● 議長 の 四 季 報 ● ●

- 6月21日 シルバー人材センター定時総会に出席
- 6月25日 平成25年第2回臨時会開会
- 7月 8日 東京都町村議長の優良町村行政視察で北海道奥尻町及び森町を視察  
(11日まで)
- 7月16日 東京都島嶼町村一部事務組合臨時会に出席(17日まで)
- 7月31日 東京都町村長会と東京都町村議長会合同で平成26年度東京都予算について要望活動を実施(8月2日まで)
- 8月 3日 東京都島しょ振興公社によるアイランドリーグ2013(フットサル)が八丈島で開催され出席(5日まで)
- 8月22日 島嶼町村長会・島嶼町村議長会合同で光ファイバーの敷設がされていない利島・新島・式根島・神津島・御蔵島・青ヶ島への早期敷設について東京都に要望活動
- 8月23日 2020東京オリンピック招致委員会がプレゼンテーションに出発するのにあたり、激励会が都庁で開催され出席
- 9月13日 スポーツ祭東京2013第68回国民体育大会ビーチバレー競技大会(女子)が新島村で開催され出席(15日まで)

## 編集後記

「夕焼けならば、明日は晴れ」。これは誰でも知っている天気予報の言い伝えです。このように太陽や星の見え方、あるいは風や雲の動きなどから天気を読むことを「観天望氣」といいます。

近年、台風の発生や進路予想、気圧の変化、波浪の状態などかなり正確に予報できるようになってきた。にもかかわらず、昨今の天気ときたら、これだけ科学が発達しているのに、ピンポイントの集中豪雨や竜巻、最高気温の更新等今までもあまり経験した事がないような異常気象が次々と起きています。

私達島民は、更に大きな課題である大地震発生と同時に津波の来襲を考えなければならぬ。天災は忘れた頃にやってくる。ゆめゆめ油断は禁物。村も備蓄倉庫の高台移転工事が始まった。

● 広報編集委員  
戸田 邦市

